

第50回衆議院議員総選挙の取り組みを終えて

～ 組合員・家族の皆さまへ ～

2024年10月27日、第50回衆議院議員総選挙が投開票されました。私たちは日本輸送サービス労働組合連合会（以下、JTSU）議員懇談会から4名の推薦候補と2名の支持候補（1名は八王子地方本部の支持）、ならびに1名の応援候補者を擁立し、必勝に向けて取り組んできました。

結果は、推薦候補者の鈴木ようすけ氏、福島のぶゆき氏、長友よしひろ氏、支持候補者のたがや亮氏、五十嵐えり氏（八王子地方本部支持）、応援候補者のヤラともひろ氏の6名が当選し、残念ながら木村たけつか氏は惜敗になりました。この間、衆議院総選挙に注目し、投票日まで数多くの取り組みにご協力いただいた組合員とご家族の皆さまに心から感謝申し上げます。

今回の衆院選の特徴は、石破首相就任からわずか26日後という戦後最短での実施と、新たな区割りで行う初めての選挙になりました。そして、これまでの自民党派閥裏金事件で揺らいだ政治への信頼を巡り、有権者の審判が問われる選挙となったこともあり、立候補者も1,344人と過去最多になりました。そのように、またしても争点があきらかにないまま自公政権の与党が定数465議席の過半数を確保できるかどうか最大の関心事となり、自公政権に対する是非だけが問われた選挙になりました。その結果、政治への不信感も重なって投票率は小選挙区では戦後3番目の低さとなる53.85%となり前回2021年の55.93%を、2.08ポイント下回りました。

私たちJTSUは、結成から多くの選挙を取り組んできましたが、今回のように準備期間のない選挙戦は初めてであったこともあり、組み立てや対応に苦慮しました。しかし、この間の積み上げた経験と日頃からつくり上げた議員懇談会との連携を基礎にした組織の力を発揮し、全ての取り組みをやり切り、職場の課題を据えながら、職場の声を国政に届けるために取り組みをつくり出してきました。その結果、自民党は単独での過半数は維持できず、自公政権へNOを突き付けることが出来ましたが、政治の流動化が予想できることから決して安心できる状況ではありません。

この間JTSUは、全ての職場から36路線72区間現地調査行動を行い、地域共生フォーラムを開催し、人口減少社会における公共交通のあり方や地域の直面している問題を掴み取ってきました。そして、社会の変化に伴って労働組合の社会的役割も問われていることから、JTSUは組合員とご家族はもとより、地域と共に歩む組織として広範な「社会連帯」をつくるための一つとして子ども食堂など社会連帯活動にも力を入れて取り組んでいます。そこで明確になったことは、公共交通の直面している課題や地域の課題、子ども食堂から見える貧困などの社会的な課題等は政治にも大きく関係するということです。つまり、いま私たちの生きる社会にある様々な課題はまさに「政治に無関心でも無関係ではいられない」課題なのです。

来年の夏は、参議院議員選挙と東京都議会議員選挙が行われます。毎年大きな選挙があり組合員とご家族の皆さまのご協力を賜ることになりますが、職場の課題はもとより公共交通の使命を果たすために政治課題も掲げて取り組んでいきたいと考えています。引き続きご理解とご協力をお願いします。

私たちは、今回の衆院選では組合員とご家族の協力により3名の衆議院議員をJTSU議員懇談会から実現する事ができました。そして、この衆院選の取り組みを通じて新たな連帯の輪も大きく広がりました。更に力強くなったJTSU議員懇談会と共に、政治と労働組合の両輪でJTSUの政策実現に向けて取り組んでいきます。

そして来年は、JTSU結成5周年を迎え、戦後80年という節目の年になります。JTSU運動の到達点を確認し、持続可能な平和な社会であり続けるための取り組みを今後もつくり上げ、組合員とご家族の負託に応えていくためにさらに奮闘していくことをお約束し、お礼に代えさせていただきます。

2024年11月14日
日本輸送サービス労働組合連合会